

特性を持った子どもの 支援について ～OTの視点や経験から～

地域連携講座

光の家療育センター 作業療法士

小川 いづみ

目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

作業療法って何？



理学療法士
(Physical Therapist)

「起きる」「歩く」「立つ」など基本的な運動機能に関わる専門職。呼吸など生命維持機能に関する治療・訓練も担う。



作業療法士
(Occupational Therapist)

食事、排泄、更衣などの日常生活動作、余暇、職業などの目的的动作の獲得。精神・認知などの心身機能の訓練、環境の調整などを行う。



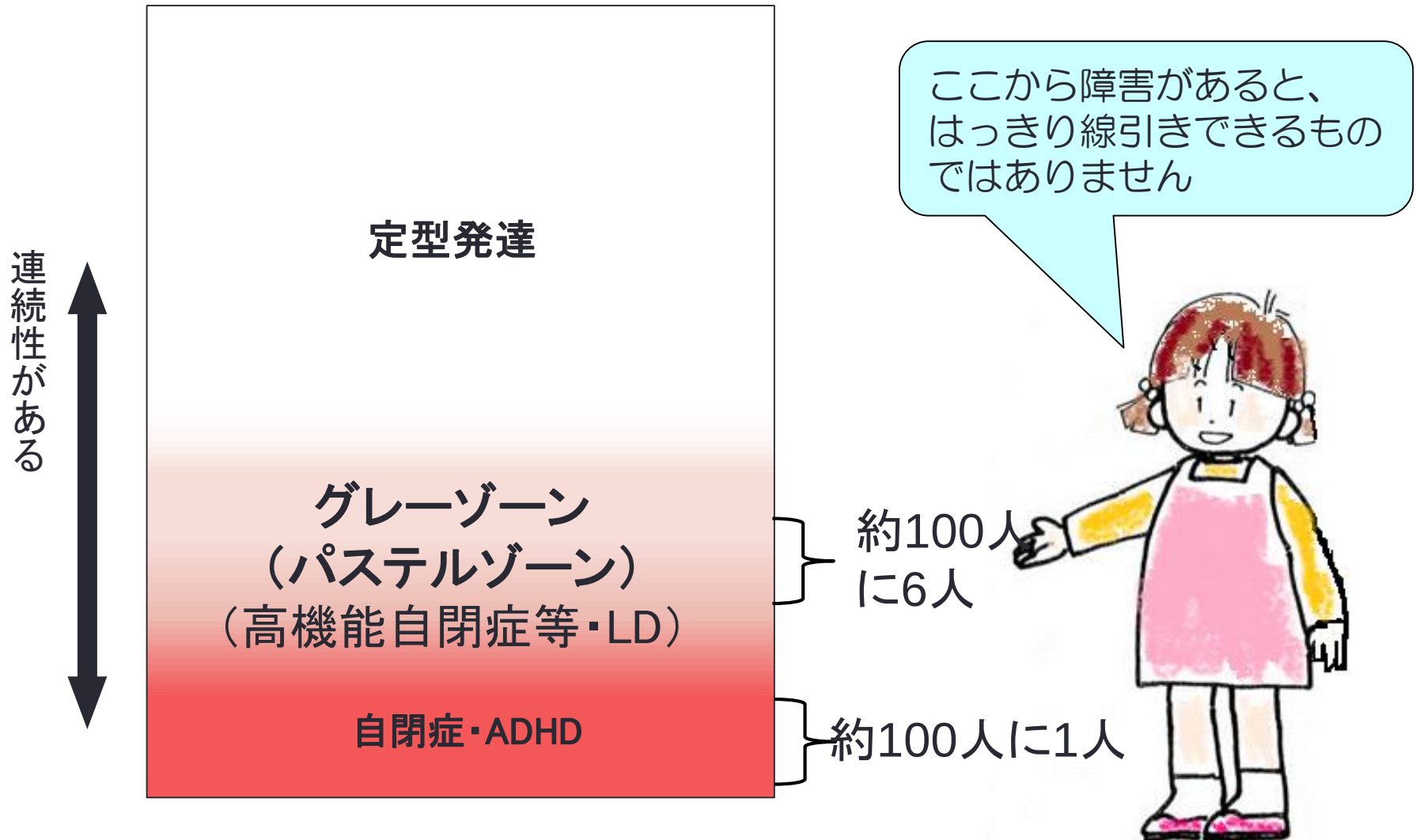
言語聴覚士
(Speech-Language-Hearing Therapist)

主に「話す」「聞く」「読む」「書く」などのコミュニケーションに関わる障害、摂食機能などの訓練を行う。

目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

障害と「定型」に境界はあるか



発達障害(特性) + 不適応 = 障害

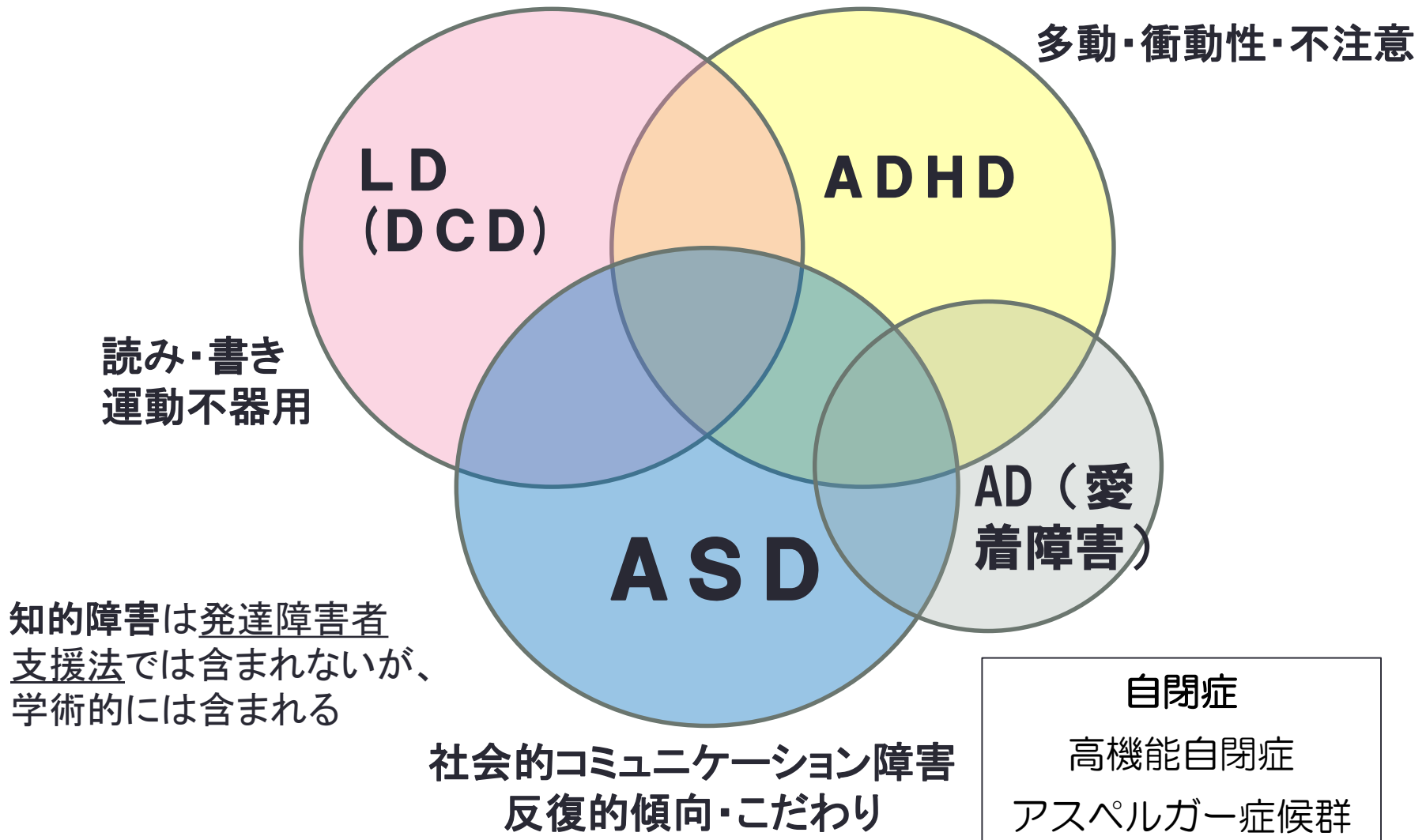
発達障害(特性) + 適応 = 個性

日常生活での支障や不都合(不適応)

が生じているかどうかで

「障害」にもなり「個性」にもなる

発達障害は独立してあるのではなく、 同時に起こりやすい



自閉スペクトラム症(ASD)の 四つの特徴

社会性の障害

言語・
コミュニケーション障害

想像力の障害と
特異的な行動や
こだわり

感覚の障害
(偏り)

ASDを持つ子どもの行動の例

人との関わりに無関心



生活上の問題



会話が困難



ASDをもつ子ども(学童)の行動の例

悪気はないのに相手を怒らせてしまう

抽象的なことがわからない



相手の気持ちを
考えられない

一方的にしゃべるなど会話に困難



感覚の過敏

●重力不安



●視覚過敏



まぶしいよ

●触覚過敏



触られると
イライラしちゃう

●聴覚過敏



うるさいよ～

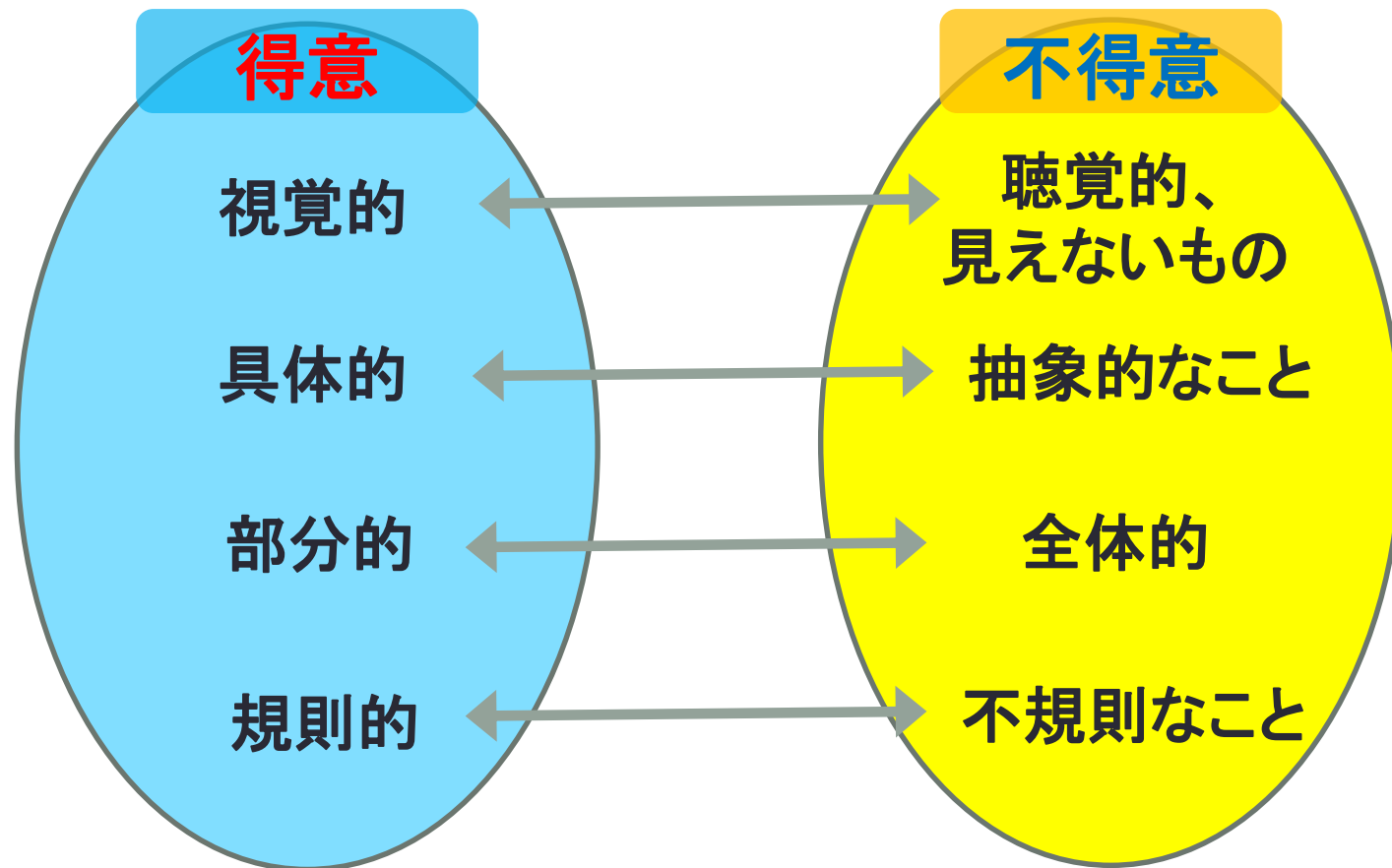
●嗅覚過敏



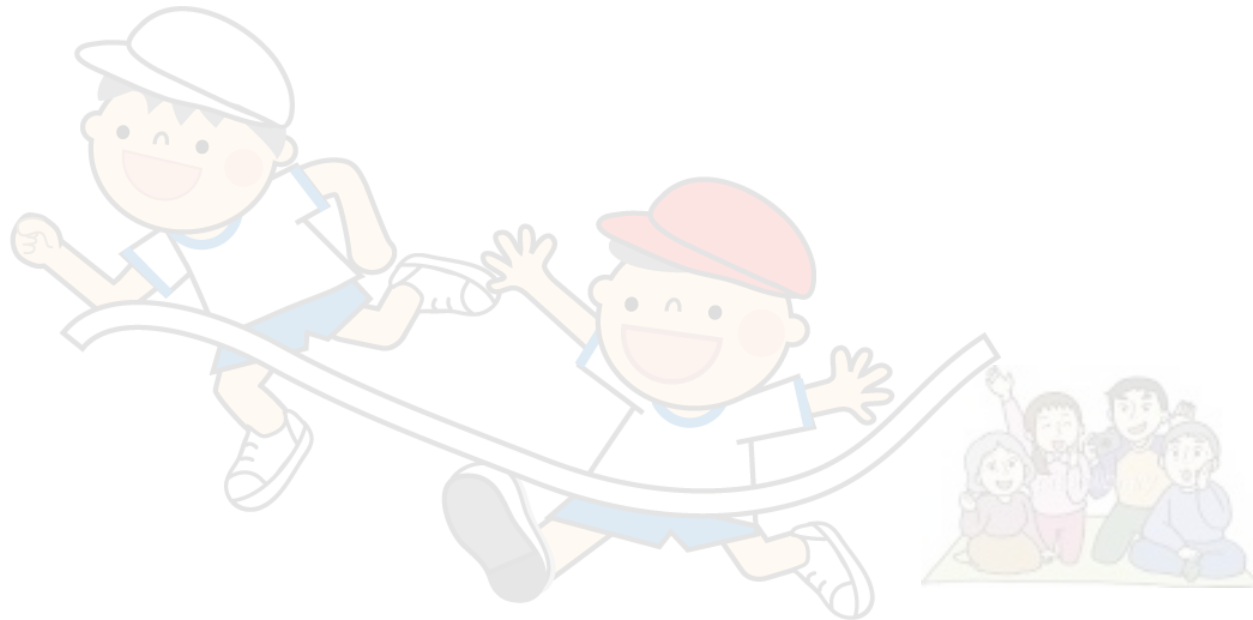
この臭い耐え
られないよ～

自閉スペクトラム症をもつ 子どもの認知特性

見え方・感じ方に強い特性がある

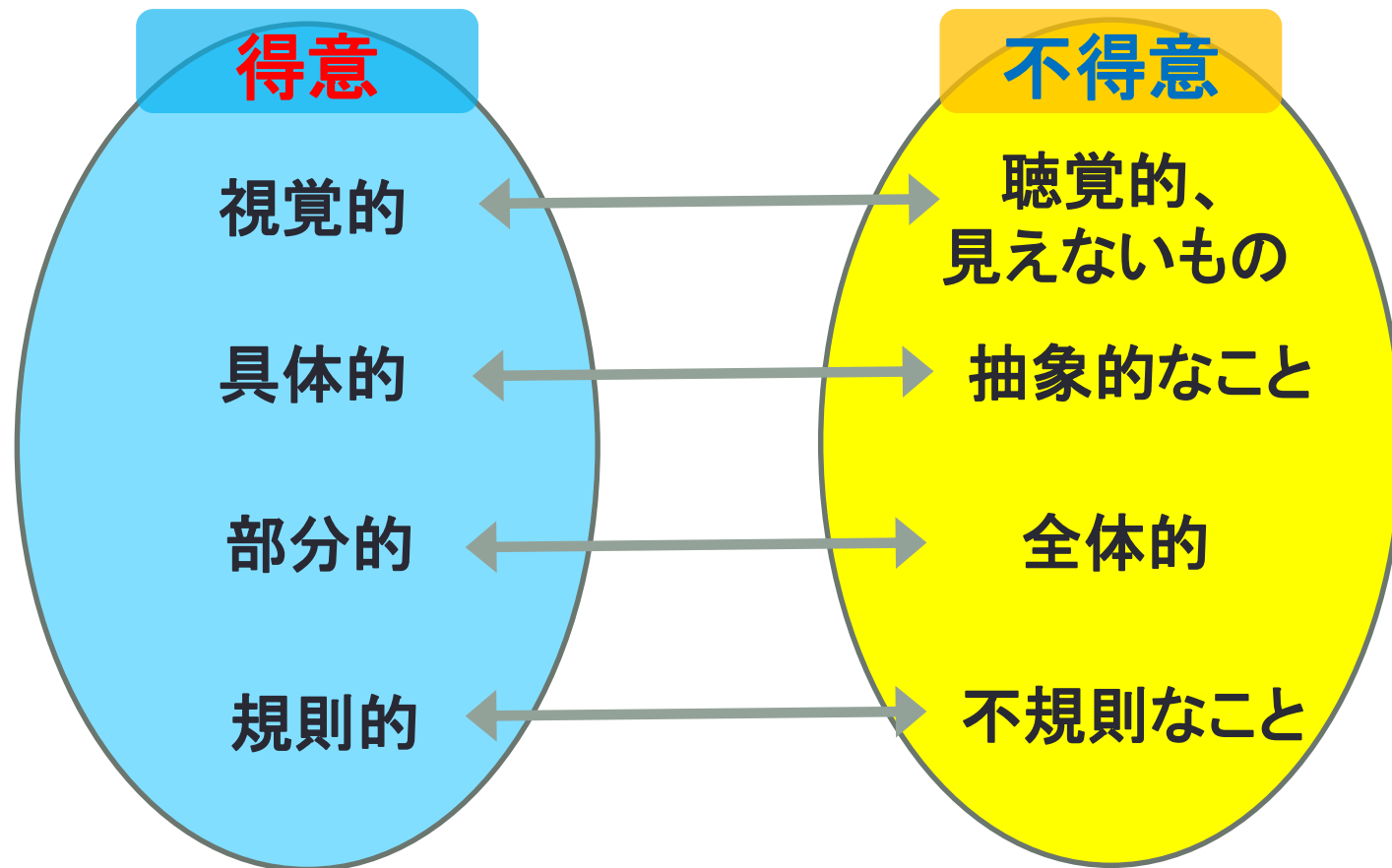


部分的 ↔ 全体的



自閉スペクトラム症をもつ 子どもの認知特性

見え方・感じ方に強い特性がある



注意欠如多動症(ADHD)の 3つの特徴

不注意

記憶すること、
しておくこと
が苦手

多動性

わかっているのに、できない
セルフコントロールが
むずかしい。

衝動性

多動性

落ち着いて座っていることが難しい



遊びやレジャー活動におとなしく参加することが難しい



衝動性

質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう



欲しい物があると激しくダダをこねてしまう



不注意

勉強などで不注意な間違いをする



興味のあることには集中しすぎてしまい切り替えが難しい



必要なものをなくしてしまう、忘れっぽい



課題や活動を順序だてて行うことが難しい



大人の症状

多動性

貧乏ゆすりなど、目的のない動き



落ち着かない感じ



衝動性

思ったことをすぐに口にしてしまう



衝動買いをしてしまう



不注意

仕事などでケアレスミスをする



忘れ物、なくし物が多い



時間管理が苦手



仕事や作業を順序だてて行うことが苦手



限局性学習症 (LD)とは

- 教科学習に大きなつまずきがある(2学年以上の遅れ)
- 読み書きができない(読字障害・書字障害)
- 計算ができない(算数障害)
- 脳の機能障害が推定される(原因不明)

学習障害とは知的な遅れの
ない学習困難

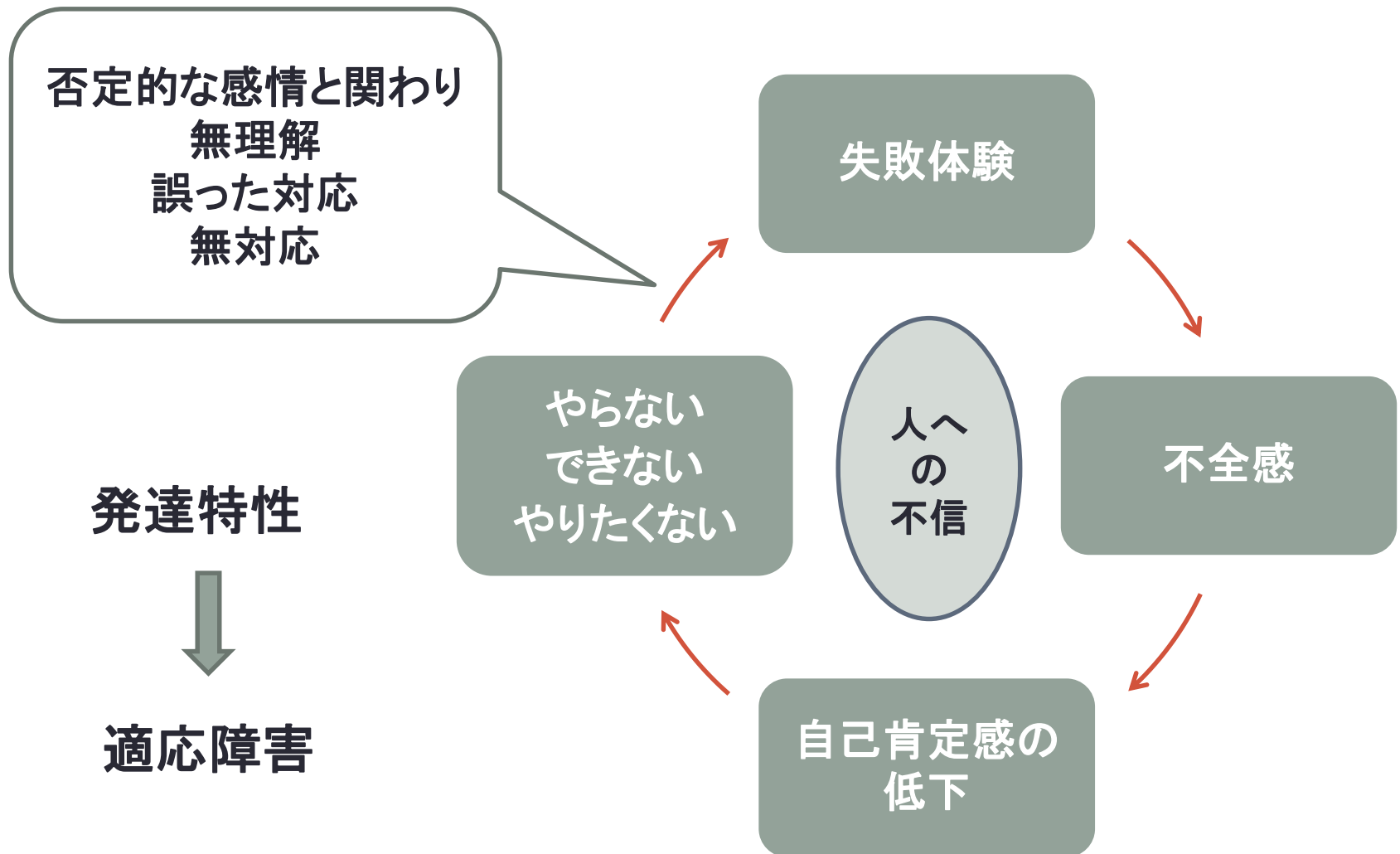
限局性学習症の特徴的な症状

- 教科書を読んでも、内容が理解できない
- 音読困難：逐語読み(拾い読み)、勝手読みや、促音(っ)、撥音(ん)、拗音(ゃ、ゅ、ょ)などが読めない etc
- 鏡文字、書き順の間違い、バランスの悪い字、同音異字の混乱、「め」と「ぬ」・「わ」と「ね」などの間違い、画数の多い漢字の間違い、黒板の視写が困難 etc
- いつまでも指算。引き算でつまづく、文章題が苦手、目盛が読めない etc
- 他の子と比べて不器用。全身、目、指先の協調運動が困難

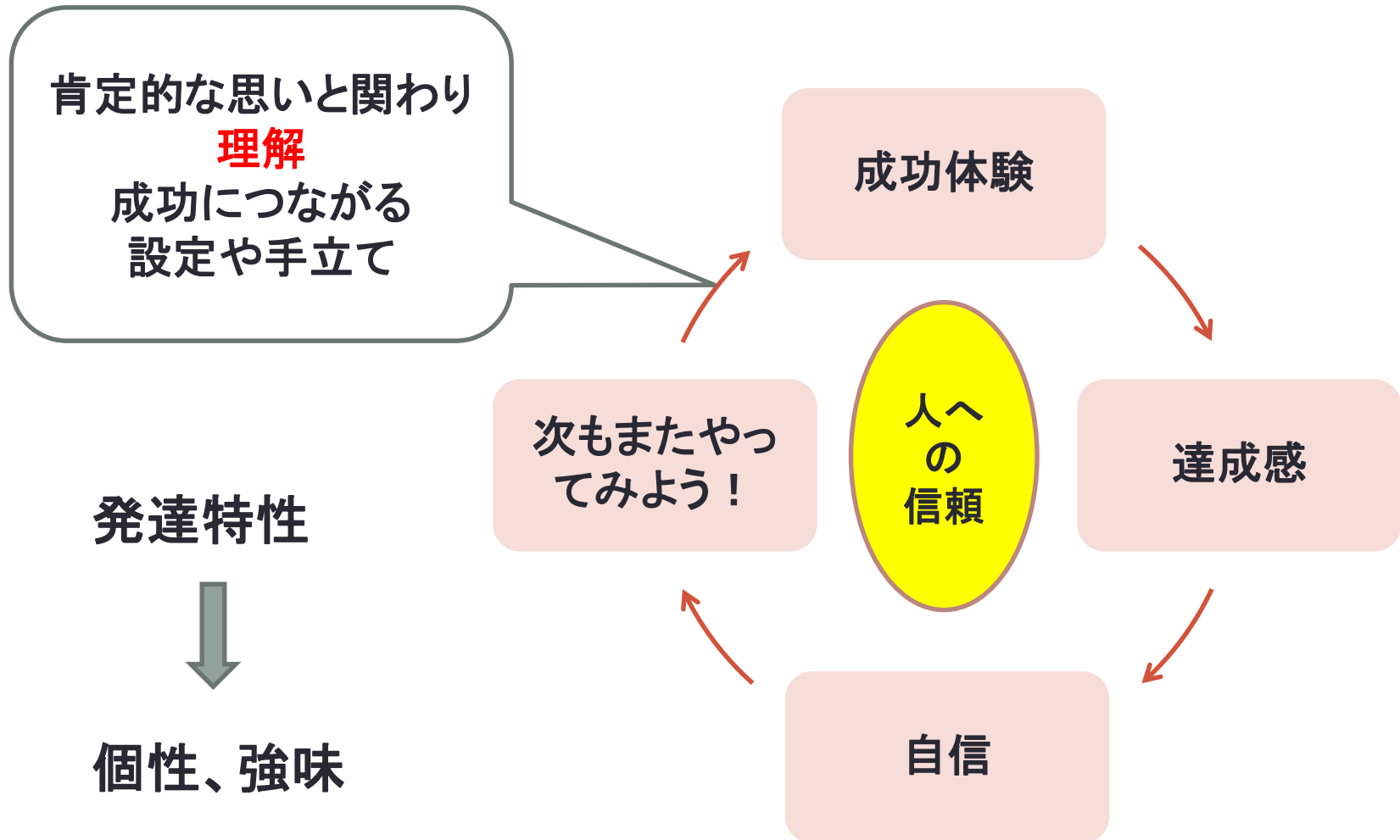
目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

悪い循環＝二次障害



良い循環＝子どもが育つ



理解＝問題の分析

「多動」という症状一つをとってみても・・・

- ADHD → 余分な刺激を無視できないのかも・・・
動きたい衝動を抑えられないのかも・・・
- ASD → 感覚や刺激を求めているのかも・・・
体が柔らかく姿勢を保持できないのかも・・・
目の前のことに興味がわからないのかも・・・

異なる発達的特性から、多動になっている

- AD → 情緒のムラが大きく集中できないのかも・・・
苦手や不安から逃げようとしているのかも・・・
生育歴や不適切な環境から多動になっている

なぜそういう行動になっているかを見極める事が重要！

具体的な支援方法

→ (1) 環境設定の工夫

構造化、子どもに適した環境や物を

→ (2) 関わり方の工夫

スモールステップ、行動変容、肯定的声かけ、ほめ方

(1) 環境設定の工夫 ～構造化～

構造化



環境を整えて
情報を整理して
わかりやすく提
示すること

いつ(When)-----時間の構造化

どこで(Where)----場所の構造化

何を(What)-----課題の構造化

どのように(How)---方法の構造化

手段として『視覚化』
(見える化)
がよく取り入れられる。

家庭でできる構造化

- When**
- ・ カレンダーがわかる子には予定・目印を書いておく
 - ・ 時計に目印を貼る、タイマーを使う
- Where**
- ・ 自分の持ち物は目印をつけて同じ収納場所に置く
 - ・ おもちゃボックスに絵カードを貼っておく
 - ・ テレビなどは気にならない場所に置く
 - ・ お風呂上がりの着替えは脱衣所でする
- What**
- ・ ホワイトボードを用意にするものを書いておく
- How**
- ・ やる順序を絵カードにして貼る
 - ・ やり方を絵カードにして貼る

タンスに目印や写真を貼る

- ☐ れんらくちょうを出す
- ☐ 音読カードを出す
- ☐ 宿題のページをひらいて出す
- ☐ 手紙を出す
- ☐ えんぴつをけずる → ママチェック
- ☐ 明日の時間割を用意する
- ☐ 明日の持ち物を白い箱に入れる
- ☐ はてなを はてなボックスに入れる
- ☐ 給食セットをせんたくきに入れる
- ☐ 学童のタオルをせんたくきに入れる
- ☐ 明日の服を用意する

<金曜日のみ>

- ☐ 月日曜セットをせんたくきに入れる

することを書いておく

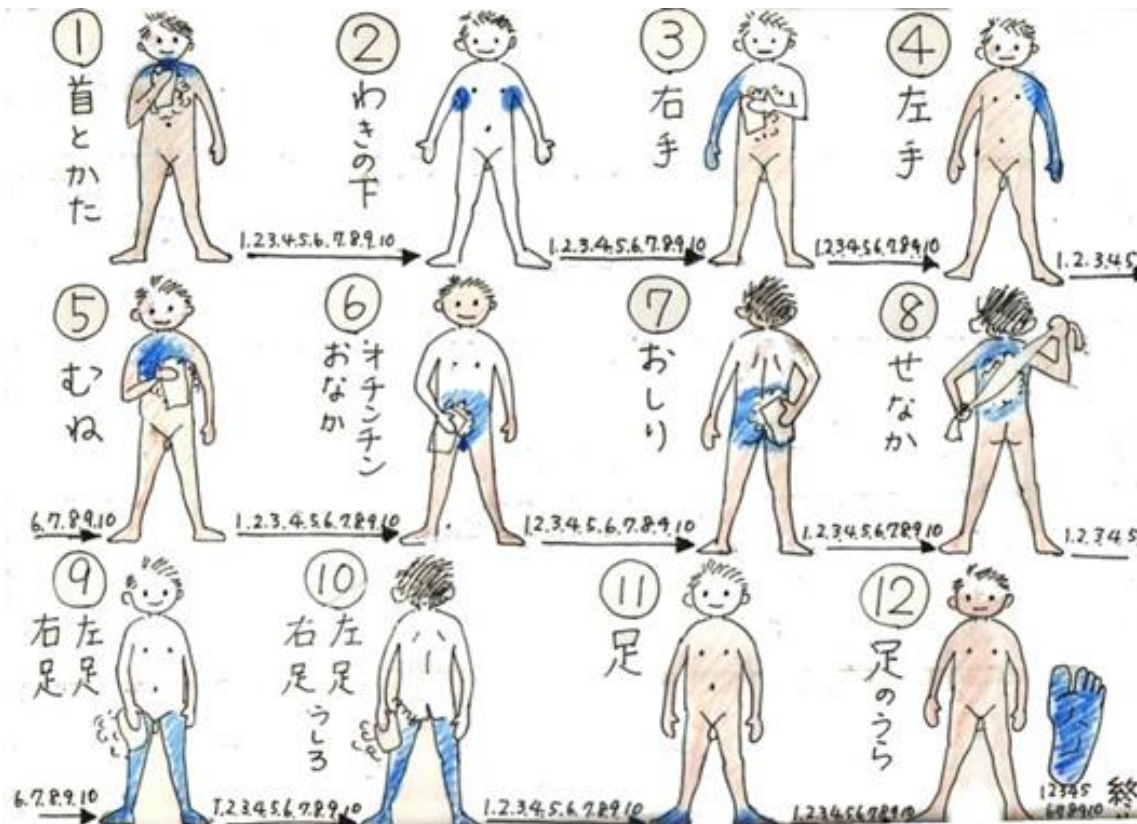


視覚的構造化の例

歯磨きの手順



洗体の手順

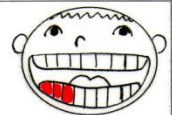


コップ みず



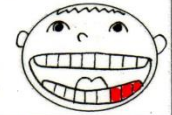
ひだり した

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10



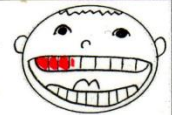
みぎ した

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10



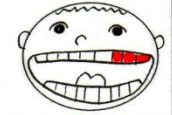
ひだり うえ

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10



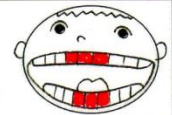
みぎ うえ

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10



まえ

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10



うがい



おわり

(2) 関わり方の工夫①

スモール
ステップ



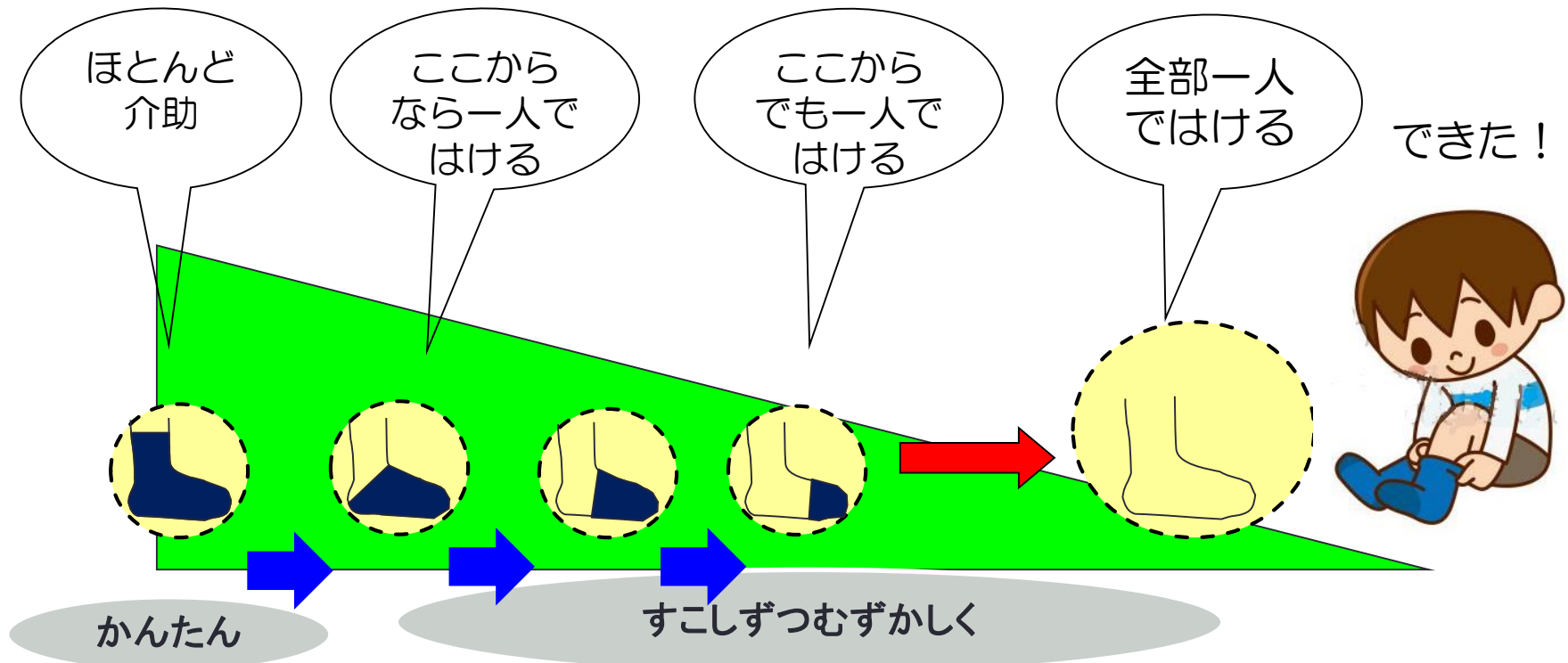
目標を小さく設定し、
小さく積み上げる

～ちりも積もれば・・・～

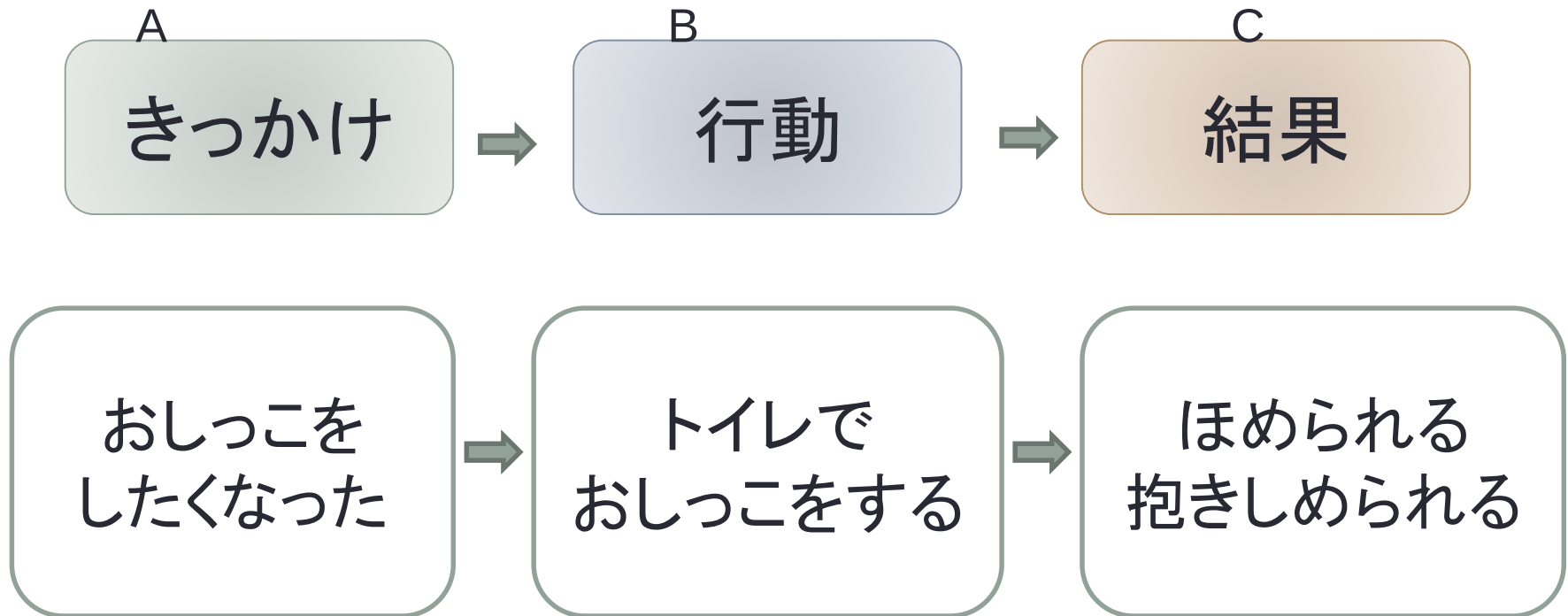
- ・生活動作を細かく単位動作に分け
- ・時間や場面を細かくする
- ・より容易な動作からする
- ・よりその子に近い発達段階から始める

スモールステップと 「背向法」の組み合わせ

いつでもゴールの達成感を味わって学ぶ



(2) 関わり方の工夫② ～行動変容～良い学習を

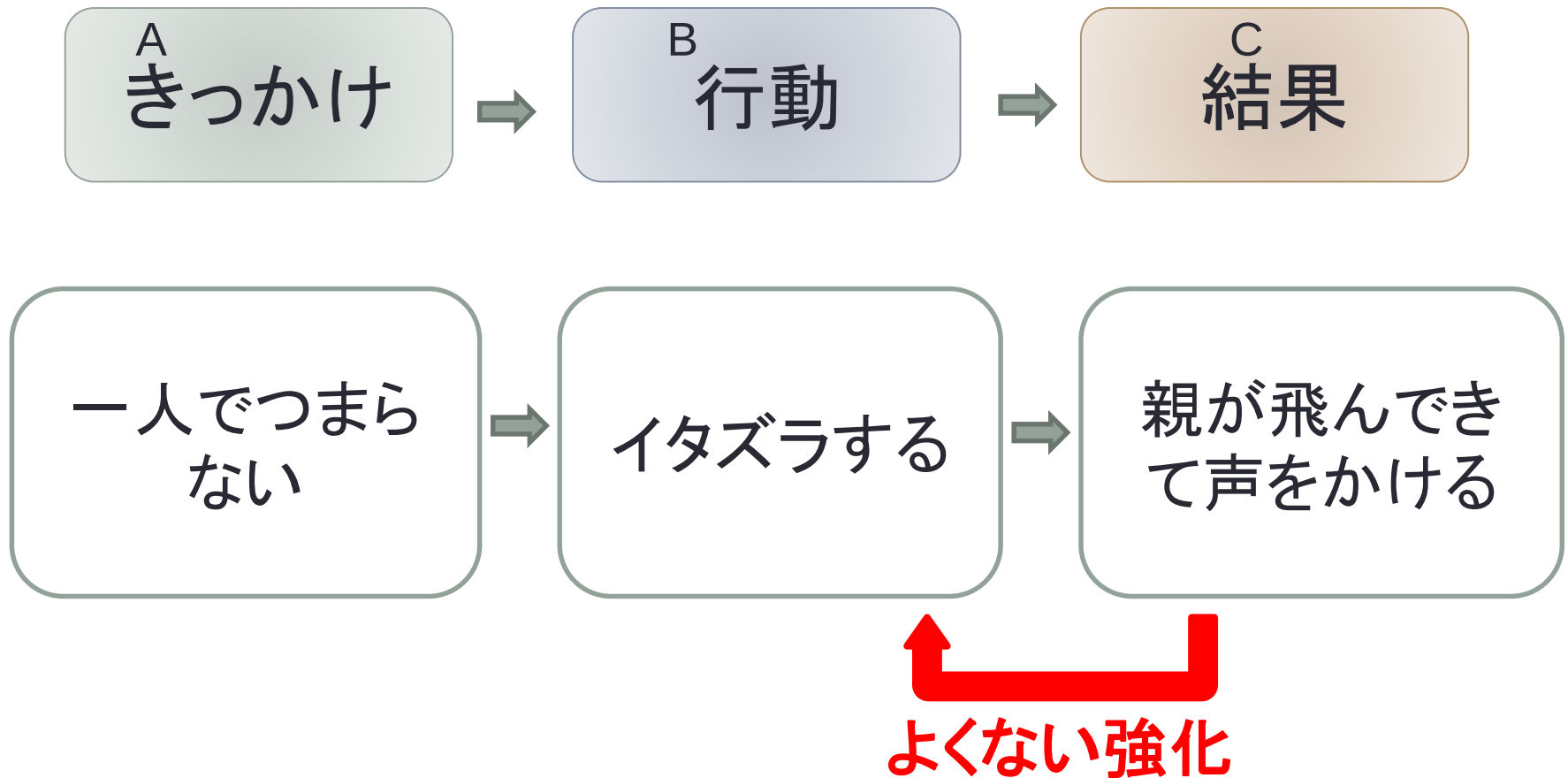


褒められればよい
行動が学習される

強化



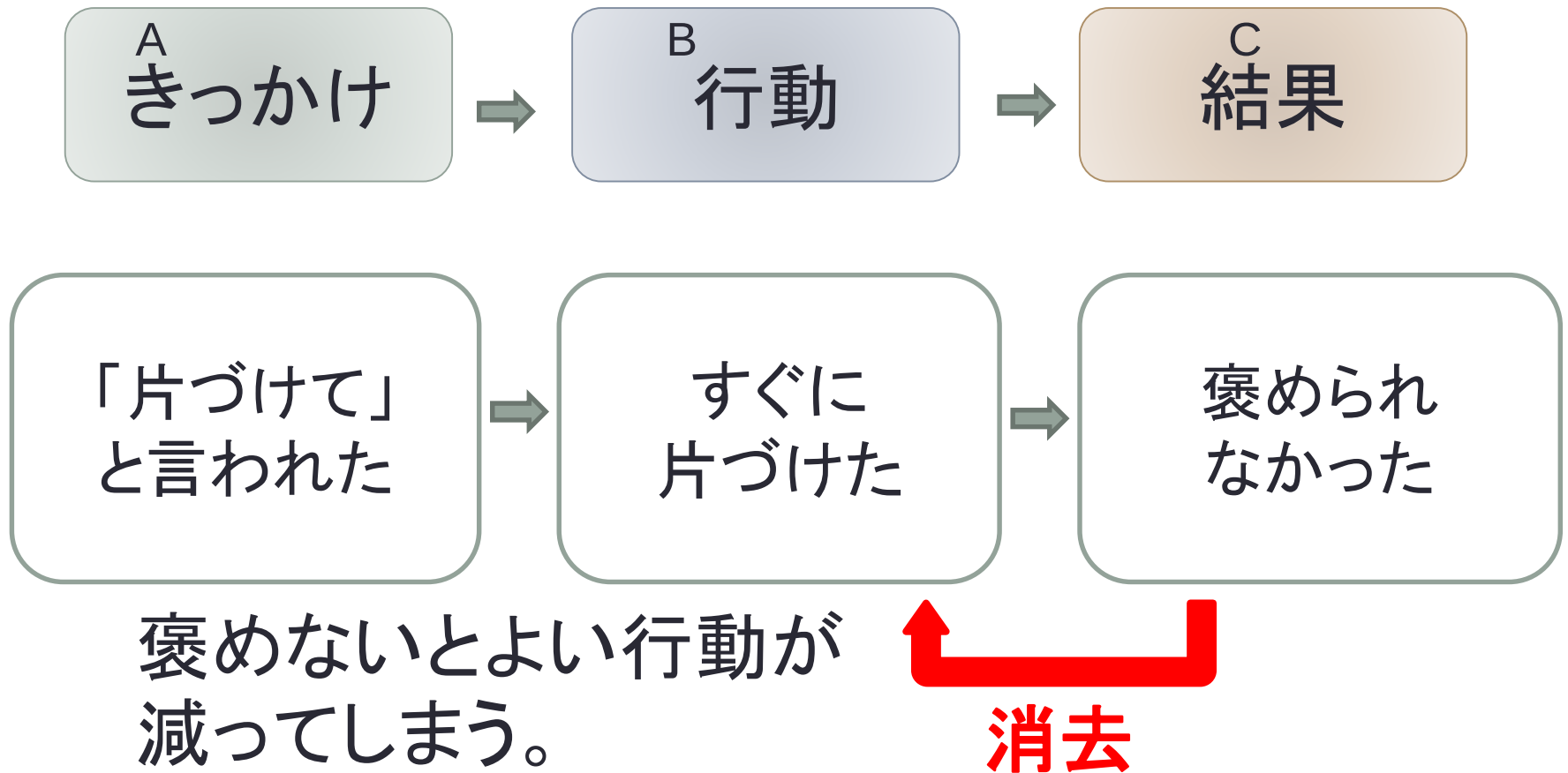
わたしたちがよくやってしまうこと 「誤学習」の例



注目を取り去る対応＝無視

- 良くない行動に対しては
叱責より**注目を取り去る対応**
＝**無視**の方が効果的

わたしたちがよくやってしまうこと 「行動の消去」の例



上手なほめ方

ほめるところ
探しが上手

ちょっとでも
ほめる



目を合わせる

すぐほめる

微笑む

先手必勝と後手必敗

子どもを
理解する



行動を予測
する



よい行動に
つなげる



ほめて
終わらせる



子どもを理解
していない



行動が予測
できていない



困った行動
の出現



叱る



(2)関わり方の工夫③

否定的
注目と
声かけ



〇〇してはダメ！

「じゃあ何をしたらいいの？」
「また怒られた！」。

肯定的
注目と
声かけ



〇〇しましょう！

「ああ、そうだった！」

これを増やして、よい循環を作りましょう！

OTが使う小技

【課題設定】

- ・ルーティンとチャレンジはその子の特性に合わせて
- ・その子の好きなキャラクターや遊びを聞いておく
- ・その子の特性やニーズに合わせてメニューを考える
- ・やり方の見本を見せるときは同じ向きから

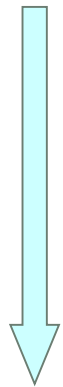
【指示の入れ方】

- ・注目を促してから（声かけ、道具を見せるなど）指示する
- ・指示をするときは目を合わせてから
- ・指示は一つずつ

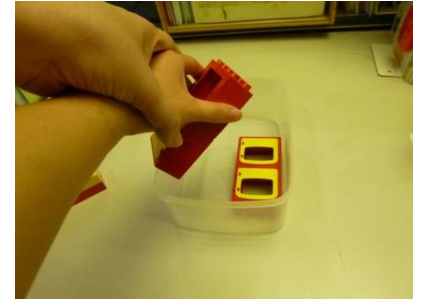
OTが使う小技

【誘導の仕方】

フェイドアウトの方向



* 身体誘導



* モデリング(手本を模倣させる)

* 指さし(視線を対象に注目させる)



* 声かけ(シンプルに)



※徐々に手がかりを減らしてゆく(フェイディング)

OTが使う小技

【見通しを持たせるために】

- ・ 流れを作る
- ・ ホワイトボードに番号を振ってカードややることを貼っておく
- ・ これから使うものを並べておく(子どもによっては隠しておく)
- ・ 行動の切り替えの前に先手の声かけ

【ほめ方】

- ・ 褒めるタイミングは子どもに合わせて
- ・ 静かに褒めるか大げさに褒めるかも子どもに合わせて

【ご家族に対して】

- ・ よく見てもらい、時には役割を交代する
- ・ 課題への参加

体(感覚運動発達)へのアプローチ



- ・ 光の家療育センター 訓練室の様子

ADL訓練の例（靴下を履く）

足で輪を入れる



輪を両手で持って足に入れる



ゴムの輪を両手で持って足に通す



足の指先を上手に動かして通す

ADL訓練の例（ボタンのつけ外し）

コインをつまみ手元を見て入れる



スリットの角度を変えて入れる



両手を使って通す



左右を持ち替えて通す

ADL訓練の例（ボタンのつけ外し）

ダッフルボタン、机の上で外す



ダッフルボタン、着て留める



大き目のボタン、机の上で外す



また着て留めてみる
そして外して脱ぐ

目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

発達障害と乳幼児期のキーワード

- 体づくり
- 遊びの充実
- 情緒を育てる(愛着関係、基本的信頼感、素直さ)
- 身辺自立(食べる、更衣、排泄、生活リズム)
- 早期からの専門機関への相談と連携
- ご家族が保育園などと上手にコミュニケーションが取れるようにサポート

発達障害と児童期のキーワード

- 学習への意欲を失わせない
- 対人関係の基礎を作る(対大人、対子ども、ソーシャルスキル)
- 身辺自立(基本的生活習慣＋お手伝い活動)

発達障害と思春期のキーワード

- 仲間作り(ソーシャルスキル)
- トンネルとしての中学時代
- 自分に対する意識(自分って「ふつう」じゃないの?)
- 異性への意識と行動
- 進路問題
- 仕切り直しの高校時代
- 学校、関係機関との連携

発達障害と青年・成人期のキーワード

- 自己理解(アイデンティティ＝自分は何者か?)と障害受容
- 人付き合い(ソーシャルスキル)
- 援助を求める力
- 異性との関わり
- 自己理解と進学や職業選択
- 職業スキルの獲得
- 余暇活動
- 自立生活スキルの獲得

発達障害に関わる支援機関

乳幼児期

- ・ 市町村保健センター・幼稚園・保育所
- ・ 教育センター・市町村子育て支援課、家児相
- ・ 児童発達支援センター・地域療育センター
- ・ 児童発達デイサービス・医療機関・児童相談所

学齢期

- ・ 小学校担任、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー・教育センター
- ・ 児童発達支援センター
- ・ 地域療育センター・放課後等デイサービス
- ・ 医療機関(小児科、精神科)・児童相談所

青年期・ 成人期

- ・ 市町村保健センター
- ・ 医療機関(精神科)
- ・ 障害者就労支援センター
- ・ 障害学生支援室(大学)

目次

1. はじめに
2. 特性のある子ども≡発達障害に関する知識のおさらい
3. 具体的支援
4. ライフステージの視点から見た支援のキーワード
5. まとめ

まとめ～発達障害を持つ子どもの 支援で大切なこと～

- まず子どもの気持ちに寄り添い、子どもの特性を理解すること
- 子どもの未来に希望を持つこと
- 「人とのつながり」「成功体験」を軸に
- 手をつなぐこと(連携)

(本人をとりまく支援者同士、家族を中心に)

ご清聴ありがとうございました。

